

(キ)14B-7

当孔は、14B-6の下流側に位置し、海岸線より60m程度陸内に寄り、14B-6より振幅が大きく降水量による水位上昇も小さかった。

(ク)B-11

当孔は、海岸線より230m程度陸地に位置し、潮汐の影響を若干受けるようで7～18cm程度の振幅が見られた。

(ケ)B-16

当孔は、沿岸部の沖積層に位置するために若干潮汐の影響（振幅6cm程度）を受けており、海岸線からは約250m程度陸内である。平成14年10月29日、30日（合計雨量436mm）の降雨による水位変動は2.7mと今回新規に設置した自記水位計中、最大の水位上昇となった。

(コ)B-19

当孔は、素掘りの排水路沿いに位置しているため、この地下水の浸透が水位に表れていることと推測され、細かい水位の規則的なサイクルが認められた。

(サ)B-22

当孔は、B-29の下流側に位置しており、降雨による水位変動は顕著ではないが、緩やかな水位変動曲線を示した。

(シ)B-23

当孔は、海岸線より約45m程度離れ、潮汐変動による影響を強く受ける地点である。水位の振幅は9～34cm程度であった。

(ス)B-29

当孔は、降雨のない時期には、名蔵礫層中に水位が保持され、多雨または大雨時には、急激に琉球石灰岩中まで地下水位が上昇した。

(セ)B-30

当孔は、本調査地一帯の基盤であるトムル層（不透水層）内に存在し、大小の降雨に敏感に反映して地下水位の上昇下降の変動が示されるが、その変動幅は少なかった。

(ソ)B-32

当孔は、B-19の下流側に設置されており、B-19よりも明確に潮汐変動を反映している。振幅は8～63cmと非常に大きく、最大で1時間当たり10cm程度の地下水位の上下変動を示した。